

37

三国通覧図説（写本）		
092-1-11		林子平著
日本の隣境にある朝鮮、琉球、蝦夷地の三国に関する軍事地理書。		

- ◆ 天明5年(1785)成稿、翌6年刊行。内容は、朝鮮、琉球、蝦夷地及び小笠原諸島の地図、さらに日本とそれらの地域との里程を示す総図を5図載せ、国防的観点からそれら四地域の地理や風俗について解説したものである。

なかでも、子平が詳細に論じたのは蝦夷地であった。彼は本書の中で、ロシアの東方政策について述べ、その勢力がカムチャツカから千島に及んでいることを指摘して、蝦夷地侵略の危険を警告している。それとともに、その対策を論ずるにあたり、蝦夷地を外地とみなす当時の通念を否定して、これを本土の延長線上にとらえている。さらに、蝦夷人に教化政策を及ぼし、蝦夷地を本土並みに開発することにより、ロシアの侵略政策に対抗し得ると子平は主張した。

寛政4年(1792)に子平が幕政批判の罪で処罰された際、本書は絶版を命ぜられた。他方、本書はシベリアのイルクーツクに伝えられ、同地の日本語学校の教師であったドイツの東洋学者クラプロートによってフランス語に訳され、1832年にパリで出版された。

- ◆ 当館所蔵本は、『海国兵談』同様「岡野氏文庫」中の資料である。保存状態は良好で、地図をはじめ、風俗を紹介した絵など、彩色も鮮やかである。

38

三兵答古知幾（さんぺいたくちき）（写本）		
A J -22		Brandt原著 高野長英訳
プロシャ人ブランドの戦術書のオランダ語訳を高野長英が翻訳したもの。薩摩侯の求めに応じて、潜伏中の宇和島において訳了した。		

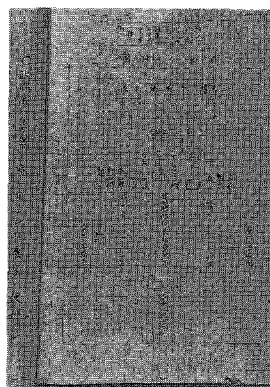
- ◆ 原書はブランド（Heinrich von Brandt）の“Grndzüge der Taktik der Drei Waffen”（1833）、オランダ語訳はミュルケン（J.J.Van Mulken）訳“Taktiek der Drie Wapens”（1837）である。これらは、当時のヨーロッパにおける最も斬新で優れた三兵戦術書といわれるものであった。高野長英（1804-1850）は本書を嘉永3年(1850)に訳了したが、刊行は長英の死後6年たった安政3年(1856)である。版本には訳者名を欠いているが、写本には曉夢楼主人とあって、長英の訳であることがわかる。

- ◆ 当館所蔵本は写本である。全27巻のうち巻3、16、17を欠く。「静岡学校」「静岡師範学校」「番外書冊」の印記をもつ。

<参考文献> 『新編林子平全集 2』（活字版）（081.5-ハ1）
『高野長英全集』（刊本の復刻版）（081.5-タ1-2）



37
三国通覧図説（写本）



38
三兵答古知幾（写本）